

6年 わたしの地図活用

聖武天皇と国分寺 今も残る地名と旧国名

兵庫県小学校 教諭

1 はじめに

兵庫県の姫路市には、「播磨国分寺跡」という史跡があります。また、豊岡市には「但馬国府・国分寺館」があります。この史跡は、聖武天皇が741年に国情不安を鎮静化するために、全国に作られた国分寺の跡です。しかし、その跡が身近なところに残っていることは、子どもたちには予想できないと思われます。あらためて、地図帳などをもとに調べていくと、東京都国分寺市を筆頭に、現在も地名として全国に数多く残っていることに気づきました。また、国分寺跡は必ず旧国名とともに記載されています。そこで、聖武天皇の施策である国分寺の建設と旧国名調べを関連付けた取り組みを紹介いたします。

2 国分寺について

741年に聖武天皇が出した「国分寺建立の詔」によって建立された国分寺は、全国に約60か所あったといわれています。どの寺院もおおよそ南門・中門・金堂・講堂・僧坊・廻廊（回廊）・七重の塔を備えており、周囲は大規模な築地塀で囲まれています。

播磨国分寺跡に足を運んでみると、七重の塔は高さが60m前後もある巨大な塔だったことがわかりました。その広大な伽藍の



写真1 播磨国分寺跡

配置からも当時、この寺院が壮大な建築物であったことを思い起こすことができました。

3 地図で「国分寺」を探す

社会科の教科書、奈良時代の学習の中で「聖武天皇は全国に国分寺と国分尼寺を建てるように命じ、都には大仏とそれをまつる東大寺をつくろうとしました。」のことが出てきます。そこで、地図帳を使って今も「国分寺」があるのか探します。今回は『楽しく学ぶ小学生の地図帳 初訂版』（以下、地図帳）のp.37～38にある「国分寺市」を紹介し、これを手がかりに調べていきます。



図1 『楽しく学ぶ小学生の地図帳 初訂版』 p.37～38

すると、ここには「武蔵国分寺」があったことがわかります。他にも、地図帳p.22の鹿児島県霧島市付近には「国分」という地名があります。また、地図帳p.26「②瀬戸大橋とそのまわりのくわしい地図」には、『讃岐国分寺跡・.』の表記があります。



図2 『楽しく学ぶ小学生の地図帳 初訂版』 p.26

このように、全国の国分寺跡を地図でさがし、どの県に国分寺があったのかなどを調べていきます。すると、どの国分寺跡も、地図帳には国分寺跡という史跡として、旧国名とともに記載されていることに気づきます。そこで、旧国名を地図帳p.1～2「④むかしの名前と境界」で確認していくこととしました。

4 歴史白地図にまとめる

次に、地図帳で見つけた国分寺跡を地図帳p.1～2「④むかしの名前と境界」を参考にしながら、歴史白地図に着色してまとめていきます。(歴史白地図は、帝国書院のホームページの「小学校の先生のページ 白地図を使う」からダウンロードできます。)

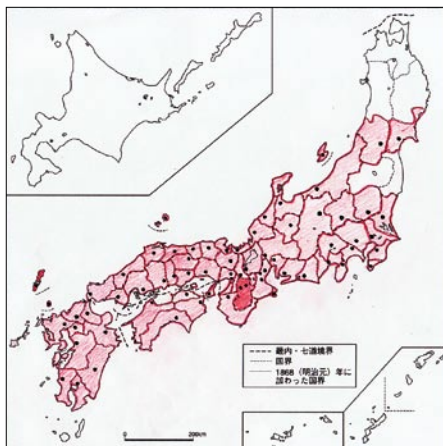


図3 今に残る国分寺跡 (現在寺院も含む)

国分寺跡には資料館が建設されているところもありますので、問い合わせを試みたり、訪れたりすると国分寺の大きさを実感できるのですからよいと思います。

資料館があるところ

- ・東京都国分寺市…武蔵国分寺跡資料館
- ・長野県上田市…信濃国分寺資料館
- ・香川県高松市…讃岐国分寺跡資料館
- ・岐阜県大垣市…歴史民俗資料館

- ・大分県大分市…歴史資料館
- ・石川県七尾市…能登国分寺展示館
- ・群馬県高崎市…上野国分寺館
- ・鹿児島県薩摩川内市…川内歴史資料館
- ・三重県鈴鹿市…考古博物館
- ・兵庫県豊岡市…但馬国府・国分寺館
- ・愛知県豊川市…三河天平の里資料館
- ・京都府宮津市…丹後郷土資料館

など

驚いたことに、地図帳p.24「④隠岐諸島」を見ると、島根県隠岐の島町に国分寺跡の記載があり、平城京からはるか離れた地の隠岐国が当時重要な国だったことがよくわかりました。



図4 『楽しく学ぶ小学生の地図帳 初訂版』 p.24

また、現在も寺院として存続しているものは史跡の記載がありません。そこで、『国分寺の中世的展開』(追塩千尋・吉川弘文館)を参考にして全国の国分寺跡を調べました。調査してわかったことは、全国のほとんどの国に国分寺が建立されたという事実です。また、「国分寺建立の詔」に、国分寺・尼寺は国府の近くに建立するよう指示があったことから、その所在地は現在も地域の中心地となっている場所があり、その当時から国分寺を中心として発展してきた側面も見えてきます。調べて着色する作業を通して、聖武天皇の多大なる権力の大きさに気づくことでしょう。